小さくても活躍してます

平城宮・京を発掘していますと、時折このような小さい瓦が出土します。一般的な瓦からすると、ひと回り以上小さいサイズです。朱雀門に使われていた瓦と比較すると、その差は一目瞭然です（写真背景）。このような瓦はどのようにして使われていたのでしょうか。

実はこれらの瓦は、「瓦葺建物」には使われない変わり種なのです。平城宮・京には檜皮葺（ひわだぶ）きの建物も存在していたことがわかっていますが、その屋根の棟だけには瓦が用いられています。そして、棟の中でも「甍棟（いらかむね）」と呼ばれる特殊な棟の飾りとして、これら小型の瓦が用いられているのです。同じ檜皮葺建物でも、「甍棟」が用いられるのはやや格式の高い建物であるため、内裏地区や東院地区からの出土例が目立ちます。

小さい瓦とはいえ、実は高貴のシンボルでもあるのです。（写真はいずれもほぼ実寸）

（都城発掘調査部　林 正憲）

朱雀門に使われた瓦